

学生特別支援室だより

News Letter



障害等のある学生への、修学支援の傾向と人材育成

山口大学における障害等のある学生への修学支援について、最近の傾向と、人材育成の展望を、学生特別支援室の副室長である岡田菜穂子先生に伺いました。

～最近の支援の傾向～

学生特別支援室ができて6月で4年目に入りましたが、相談対応件数は年々増えています。学生特別支援室の前身組織(CSR:コミュニケーションサポートルーム)での相談対応件数は年間365件でしたが、平成29年度は年間2008件と急増しています。<※相談対応状況については次頁をご覧ください。>

相談者も多様化していて、学生はもちろん、保護者や医療機関、中学校や高校などからの問い合わせもあります。また、障害種も多様化しているので、連携を取る対象範囲も幅広くなっています。

山大は全学での支援体制を整備しています。学生への直接的な修学支援を行うのは授業を担当していたり研究室で指導を行う先生方ですが、学生特別支援室は支援の相談窓口として、支援のコーディネーター、学部・先生方のサポートをする機能を持っています。先生方だけでなく、関連部署と連携して対応しています。

3年前に比べると学生特別支援室の存在が少しずつ浸透してきて、全学での支援体制もうまく回りつつあると感じています。支援体制の充実や学生特別支援室での定期面談の効果から、昨年度は年末から3か月間は相談件数が抑えられていました。年々、支援体制も整えられてきて、良い方向に向かうケースも増えたり、うまく学生特別支援室を利用してくれる人も増えています。また、学部などとの連携も取りやすくなってきています。

～人材育成の目指すところ～

学生特別支援室では、障害学生支援やユニバーサルデザイン、アクセシビリティについて、気軽に関われるものから深く学びたい人向けなど、状況に応じて段階的に学べる人材育成プログラムを用意しています。1つはメールリストに登録し、配信される研修会や関連するイベントの情報をみて、興味があれば参加してみるという段階です。さらに深く学びたい人には、平成29年度から共通教育にユニバーサルデザイン展開科目として4つの科目が開講されたので、そちらをお勧めしています。

また、アクセシビリティリーダーの資格取得ができる教育課程を用意していて、これは授業と連動して資格取得を目指す仕組みです。ユニバーサルデザイン展開科目の4つの科目を取得し、オンライン講座を修了すると1級アクセシビリティリーダーの試験が受験できます。オンライン講座のみでも2級アクセシビリティリーダーの試験が受験できるので、学生はもちろん、教職員にもぜひ挑戦してほしいと思います。障害者対応の話は授業やプログラムの大きなポイントで、多様性の一つが障害という感覚が浸透してほしいです。また、障害者と健常者の境を少しずつ低くしていく取り組みが必要だと感じています。このように少しずつ勉強できる機会を増やし、スキルアップしたい、挑戦したいという人が段階的に学べる仕組みを用意しています。

支援と聞くと堅いイメージがあったり、関わる人が限られてしまうかもしれませんが、そこだけに頼らずいろいろな分野の人に支援に関わってほしいと思います。また、グローバル化、情報化が進む今を生きる学生の可能性を感じています。今後、学生特別支援室では多様性理解を深める機会を増やしていけたらと思いますので、学生の皆さんにも参加してもらえたらうれしいです。

グラフで見る、SSR相談対応状況

学内の障害のある学生(障害学生)の修学支援の拠点である「学生特別支援室(SSR)」には、日々、支援に関する相談が寄せられています。相談対応件数や、相談の傾向など、学生特別支援室での相談対応状況をご報告します。

相談者はさまざま！

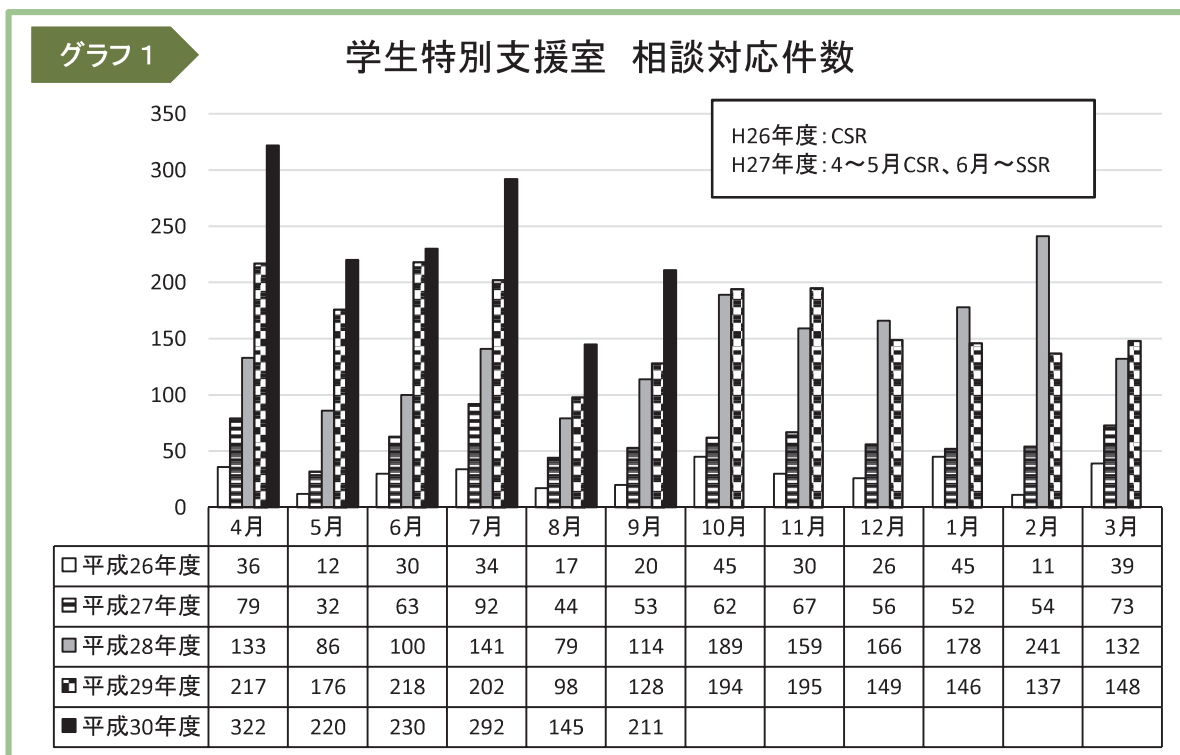
学生特別支援室に相談があるのは、障害等のある学生のみではありません。障害のある学生の保護者、授業担当の先生、相談事務窓口で学生対応を担当している職員の方々、ゼミや授業等でサポートを行う学生等。また、最近では、外部医療機関や就労移行支援事業所、出身高校等との連携も増えてきました。

- 山口大学に在籍している障害のある学生：身体障害、内部障害、発達障害、不安障害、指定難病など、障害の種類や程度は様々です。
- 相談対応の内容は、定期面談、修学スケジュール確認、授業中支援のコーディネート、支援の実施状況に関する確認、履修に関する助言、授業担当の先生との相談の仲介、関係窓口の紹介、学内諸手続きの補助等です。

相談対応件数が急増しています！

学生特別支援室では、毎月の相談対応件数を集計しています。

以下の「グラフ1」に、SSRの前身組織であるCSR(コミュニケーションサポートルーム)で対応していた平成26年度～本年度前期(平成30年9月末)までの相談対応件数の記録をまとめました。



● 相談対応件数が増加しています！

学生特別支援室での相談対応件数は、年々増加しています。平成26年度から27年度、28年度と相談対応件数は倍増しており、平成29年度には年間2000件を突破。本年度の相談件数は、前期(平成30年4月～9月)1420件で、引き続き年間の対応件数を更新する見込みです。

これには様々な理由が考えられますが、潜在的な支援ニーズが顕在化しつつある可能性や、支援に関わる教職員を中心に対応の方法を確認するための問合せが増えていることなどが影響していると考えられます。

● 月ごとの相談件数を見ると、4月、7月、2月が多い傾向にあります。

いずれの年も、特に新学期がスタートする4月、期末試験が行われる7月と2月の相談対応件数が多い傾向にあります。逆に、8月(夏休み)や3月(春休み)の件数は落ち着いています。

月ごとの相談対応件数は、大学の修学スケジュールと連動して増減していると推察されます。

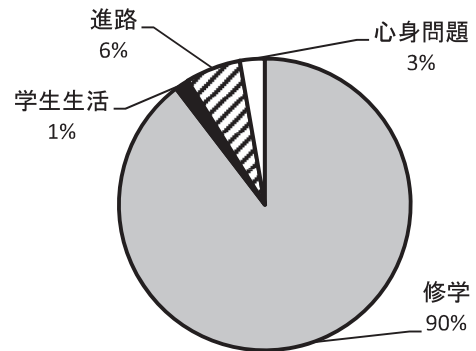
修学支援に関する相談がメインです

「グラフ2」は、本年度前期に学生特別支援室に寄せられた相談の内容を、円グラフに示したものです。

- 相談の内容は「修学」に関するものが最も多く、全体の9割を占めています。学生特別支援室は、障害学生の修学支援を主な業務としているため、修学に関する相談が多いのは当然といえます。
- 一方で、相談対応の内容は修学のみに関わらず、進路、心身問題、学生生活にも及んでいます。修学支援に関連して発生する課題が多岐にわたるからかもしれません。
- 学生特別支援室では、「就職支援室」、「保健管理センター」、「学生相談所」、「学生支援部」と常に連携して対応に当たっています。相談内容によっては、適宜関連する窓口をご紹介します。

グラフ2

平成30年度前期SSR相談内容



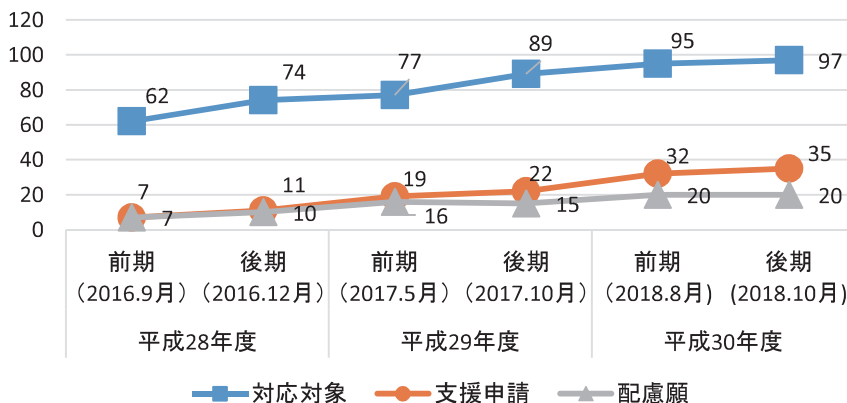
「支援申請」制度を利用するケースが増えています

山口大学には、障害学生が支援を申し立てることのできる「障害による修学支援申請」の制度があります。

- 支援の申請が始まった平成28年度から、支援申請学生数は増加しています。
- 相談対応・経過観察を行っている学生数に占める、支援申請学生数の割合も高まっています。平成30年度前期は、97名中35名が支援の申請を行っており、支援申請者が4割弱を占めています。

グラフ3

支援申請・「配慮願」配布者数の推移



<支援の申請について>

支援の申請には、
 ① 学生本人が支援を希望していることを前提としています。
 ② 障害者手帳の写しまたは該当する障害に関する診断書(3ヶ月以内に作成したもの)が必要です。
 支援申請を希望する方は、学生特別支援室までお問合せください。申請要領を説明します。

- 支援の申請を行うと、組織的な支援や情報共有が可能となります。例えば・・・
 - ✓ 授業担当の先生方に、障害の状況や授業中の支援要領をお伝えする「配慮願」の配布
 - ✓ 支援機器の貸出、授業中支援のためのサポーターの派遣など
- 学生特別支援室での相談や定期面談には、特に支援の申請は必要ありません。
- 支援の申請には至らない場合でも、定期面談でスケジュールや課題の進捗状況の確認を行って、自分の修学ペースを調整できているケースもあります。
- 修学支援は、大学での学習や研究に参加しやすくするためのものです。学生特別支援室では、ひとりひとりの学生に合った方法を見つけるお手伝いをしています。

SSRの利用方法

学生特別支援室での相談対応は、来室・電話・メールにて受け付けています。

- 相談を希望する方は、事前に予約をお願いします。
- 支援の申請や、授業中「配慮願」配布についての問い合わせも、こちらをお願いします。

<吉田地区>

吉田キャンパス 共通教育本館1階
 メール : shien@yamaguchi-u.ac.jp
 電話 : 083-933-5256

<宇部地区>

常盤キャンパス 工学部本館1階102号室
 メール : shien@yamaguchi-u.ac.jp
 電話 : 0836-85-9037

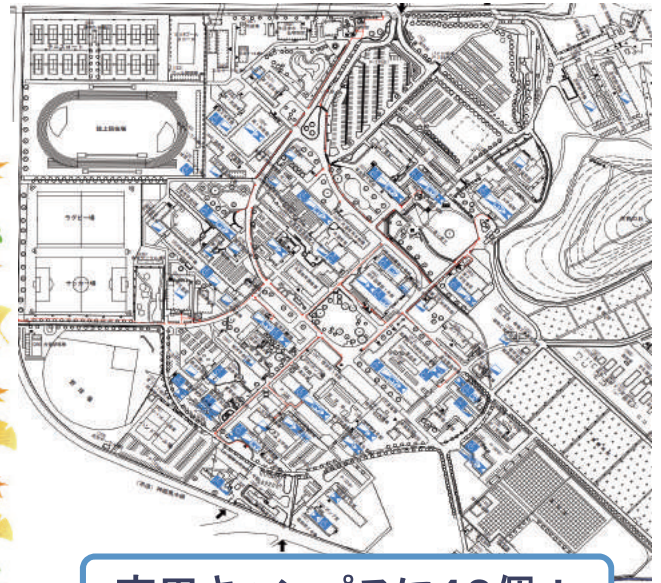
SSR学生スタッフ活動報告



学内バリアフリー調査

～身障者用トイレ調査～

各学部棟・施設に設置されているフロアマップをもとにトイレの位置関係を確認し、身障者用トイレの設備や利用やすさについて調査し、写真と共にまとめました。使いやすいと思われるトイレがある一方で、改善が必要になりそうなトイレもありました。課題として挙げられるのは、便座と呼び出しボタンの位置が遠い、鍵がかけにくい、身障者用トイレのマークがないなどです。できるものから改善しつつ、使いやすいトイレがどこにあるのか、明示することも重要だと感じました。（調査期間：H30. 2/5～H30. 3/5）



吉田キャンパスに40個！

<便利ポイント>

- ・手すり(固定&可動)
- ・呼び出しボタン
- ・広さ(入口幅・可動域)
- ・オストメイト対応.....オストメイトとは、ストーマ(人工肛門・人口膀胱)を利用する人のことを指しています。

より多くの人にとって使いやすいかを検証するために、左に挙げた項目を中心に調査しました！

学生スタッフが選ぶ、使いやすいトイレNo1 ～図書館1号館B1階～



<その他の使いやすいトイレ>

- ・共通教育棟 学務入口前
- ・共通教育棟 売店横
- ・人文学部1階
- ・経済学部A棟1階

<調査で挙げた課題>

- ・男子、女子トイレとの併設、隣接
- ・身障者用トイレのマークがない
- ・呼び出しボタンがない
- ・段差、障害物
- ・内部が狭い
- etc...

◇問い合わせ

山口大学 学生特別支援室(SSR)

利用時間：10:00～18:00(土日・祝日を除く)

場所：共通教育本館1階 就職支援室横

TEL:083-933-5256

E-mail:shien@yamaguchi-u.ac.jp